

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL.103
2008/9

「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。



1
page

〔特集〕

吉野川アラカルト

吉野川はともだちin昼間小学校

流域の子どもたちに、吉野川について学び、親しみ、楽しんでほしい。今年は『吉野川はともだち』をテーマに、ふる〜ぶめいとリーダーの川に楽しむ体験講座に加えて、徳島河川国道事務所の『吉野川講座』も開催しました

3
page

過去から未来へ

NPO法人 新町川を守る会 理事長
中村英雄さん

4
page

ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す!

半田小学校の巻
ふるさとの川 半田川について学ぶ

5
page

ふる〜ぶめいと通信

商売の神 恵美須様 ゆかりの地

6
page

源流域からの便り

第3便

ふる〜ぶ INFORMATION

角ノ瀬排水機場の「見学会および
ポンプ試運転」が行われました

7
page

よりよい吉野川づくり〈第40回〉

河川環境保全のため、地域の方々と協力
した取り組みを行っています

ふる〜ぶひ・ろ・ば

編集後記・おたより・プレゼント



カワラナデシコ

ナデシコ科の多年草。
ナデシコ、ヤマトナデシコの名もあります。
秋の七草のひとつに数えられ
吉野川では池田ダム下流から高瀬あたりで確認されています。

Kinko

吉野川はともだちin 昼間小学校

平成20年6月23日

流域の子どもたちに、吉野川について学び、親しみ、楽しんでほしい。ふる～ぶめいとリーダーと編集部のそんな思いから、昨年始まった『川はともだち』。今年は『吉野川はともだち』として、さらにパワーアップ。より吉野川について深く学んでいたきたいという思いから、従来のふる～ぶめいとリーダーの川に楽しむ体験講座に加えて、徳島河川国道事務所の『吉野川講座』も一緒に開催しました。



地図を広げて熱心に自分たちの学校を探しています

流域を知る

今回参加してくれた昼間小学校6年生25名。今年の総合学習のテーマは、「ふるさと」。その学習の一環として、今回の学校訪問があります。『吉野川について学び、自然を愛し、体験学習を通じて、人とのつながりや人の温かみを感じさせたい』と担任の鶴田真由美先生は、そんな狙いを話してくださいました。先生のお話によれば、「子どもたちは、吉野川のことをあまり知らない。竹林や竹の利用法についても教えない」とのこと。これは、やりが

いがあると、スタッフ一同決意も新たに、講座がスタートしました。

最初は、徳島河川国道事務所森長副所長より、吉野川の自然をテーマに、吉野川の長さや河口の広さなどの概要、吉野川のおいたち、吉野川と洪水と竹林についてなど、大きく8つのテーマで授業が行われました。

昼間小学校がある地域は吉野川の上流域、中流域、下流域のうちのどの流域になるか、また、流域の概要図を

見ながら小学校の場所を探すなど、クイズ形式にして子どもたちに考えてもらいました。昼間小学校周辺は無堤地区ですが、もし堤防を作るとするなら、この地域では上の幅（天端幅）が7m、高さが4m、下の幅（堤防敷幅）が31mで、下の幅は、体育館の幅（27.7m）より大きくなるというように、身近なものに例えて具体的に説明があり、吉野川をより身近に感じる機会となりました。

竹細工教室

竹は、地下茎が絡み合って茂っているために、地盤を強くし、川岸や堤防を水の浸食から守る働きがあります。

いまま吉野川に残る水防竹林は、吉野川の風物詩というべきもの。ふる～

ぶめいとリーダーによる体験教室では、長江順次さんを中心に、今中忠重さん、上田佳穂さん、山地武彦さんが竹について楽しく学んでいただく講座を開催しました。

竹細工教室の前に、長江さんがパネルを使って、竹が萱葺き屋根の材料や、



竹について学ぶ時間



みんなて説明を聞く



炎で熱して竹とんぼをひねる。みんな真剣

こまい
木舞（こまい）といって、土壁の下地に使われていたことなどを教えてくださいました。また、竹が使われている漢字クイズでは、**筍、簀、箆**などの問題がでました。（みなさん、分かりますか？ 答えは右下にありますので、ぜひ挑戦してみてくださいね。子どもたちは、けっこう知っていましたよ）



竹とんぼ、うまくあがるかな

竹細工では、ひねり竹とんぼとお箸を作りました。最初に長江さんが竹を割ると、一同大歓声。ひねり竹とんぼは、バランスをとるのがポイント。左に傾くと左が重く、右に傾くと右が重い。これでは、まっすぐに飛びません。長江さんが作ってくださった羽の形をサンドペーパーでこすり調整します。左右のバランスがちょうどいい具合になったら、羽の中央にアルミ箔を巻いて、ロウソクの炎で熱しひねりを加えて、最後に軸を挿せばできあがりです。

このバランスをとるのが、意外と難しい。ふる～ぶめいとリーダーによる

指導のもと一生懸命サンドペーパーをかけた竹とんぼは、体育館の中を高く、高く舞い上がっていきました。

その後は、お箸づくり。竹でお箸を作るのは初めてという子どもがほとんど。最初は、ナイフの持ち方が反対だったり、削る方向が反対だったり。また、ナイフでなく、竹自体を動かすと削りやすいのですが、なかなか思うようにはいきません。でも、「絶対仕上げるぞ!」という思いが伝わってくるほど、みんなの表情は真剣そのもの。最初は、危

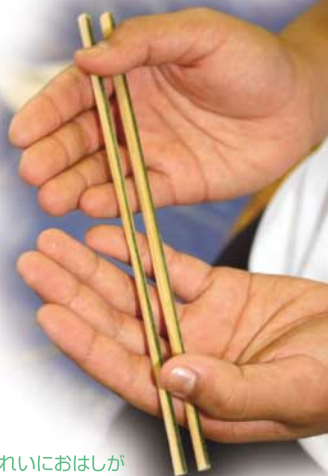
なかつかったナイフの持ち方もさまになり、時間内にお箸が完成しました。



ふる～ぶめいとリーダーのみなさんも笑顔で指導してくれた



みんな一生懸命



きれいにおはしができました

学習を振り返って

子どもたちからは「吉野川の長さなどが分かり、すごくおもしろかったし、

勉強にもなりました」「初めて作った。川のことなどがよく分かった。いい経験ができた」「竹細工の時に分かな

い事を全部詳しく教えてくれたので、すごくうれしかった。自分用の箸もつくれたのでよかったです」「今日のことはこれからの生活にもいかしていきたい」など、色々と話してくれました。吉野川全体の理解を深め、流域に数多くある竹をより身近に感じ、モノづくりの大切さを知った講座となりました。『吉野川はともだち』は、次回、旧吉野川流域の堀江南小学校で開催します。

今年100号を迎えたふる～ぶの今年のテーマは「つながり」です。人と人、いろんなつながりが生まれた『吉野川はともだち』

もちろん、今日参加した子どもたちが、いつまでも吉野川とつながってくれますように。

それが私たちの願いです。



みんなで記念撮影。完成してよかった

過去から 未来へ

ふる～ぶが100号を迎えた記念の年として、
取材した方々に再登場していただき、お話を伺っていきます。



川は人生そのもの

NPO法人 新町川を守る会 理事長
中村 英雄さん

徳島市の中心部を流れる新町川流域や、吉野川河川敷の清掃活動をはじめ、川に親しめるイベントの実施、吉野川源流域での下草刈・植樹・間伐、吉野川上中流との交流など、さまざまな活動が続けているNPO法人新町川を守る会。「徳島市の中心部を流れる川がこんなに汚れてはいけな」と、たった一人で川の清掃を始めた中村さん。その後、賛同するメンバー10人が集まり、平成2年3月から毎月2回ボートに乗船し、川の清掃をすることから始まりました。現在の会員数は295名。ボランティアで毎日運航されている新町川遊覧船も、県内外から毎年約4万人の方々が乗船し、川から眺める風景を楽しんでいます。



新町川での清掃活動(写真提供:新町川を守る会)



吉野川源流域大川村での下草刈・植樹・間伐
(写真提供:新町川を守る会)



今年で第20回を迎えた吉野川フェスティバル。毎年5万人もの人々が参加し、吉野川に親しんでいる。

「ひょうたん島以外にもいろんな航路ができれば、おもしろいし、観光資源にもなる」そんな思いから、今年から水資源機構旧吉野川河口堰管理所と協力し、本格的に始まった新しい試みが「*撫養航路の復活」。新町川を出発し、吉野川、旧吉野川などを巡り、約2時間かけて、撫養川へ向かうというコース。実際、このコースは明治時代に巡航船として存在していました。昨年の11月に1日だけ運行されましたが、申込者が殺到したことから、今年の3月から毎月1回、日曜日の朝8時に出発し、12時頃に戻ってくる便が運航されています。「新町川の遊覧船は市の中心部。撫養航路は、自然の中を行くから見える風景も違う。パナマ運河と同じ仕組みの閘門こうもんも見え、川の仕組みもわかる。9月からは毎週2回は運行しようと思っています」と中村さん。



クリスマス恒例、川からサンタがやってくる

撫養航路を結ぶ流域で朝市に行けるようにしよう、旧吉野川のアドプトの団体が増えるように声をかけてみようなど、撫養航路についてだけでも、さまざまな構想が浮かんでいます。「もっ

ともっと川に集まってほしいし、川に来たいと思えるようにしていかないかのよ」とも。「中村さんにとって川とは何ですか?」と聞くと

「人生そのもの」と話してくださいました。これからも川を中心とした活動が広がっていくことでしょう。



新町川遊覧船



撫養航路(写真提供:新町川を守る会)

*撫養航路については事前に電話での申し込みが必要(毎回先着24名まで)乗船希望の前月の1日から受付。(例えば、10月乗船分については9月1日から申込み)NPO法人新町川を守る会のインターネットでも予約ができるように検討中。

●乗船料無料(保険料100円が必要) ●申込み・問い合わせ先:090-3783-2084



町のなかを南北に吉野川の支流半田川が流れ、曲がりくねった川沿いに多くの集落が点在しているつるぎ町半田。半田そうめんや半田漆器などで知られている

町です。半田小学校も半田川のすぐ近くにあり、その校歌には、「まるい盆地よわが町よ、町をやしなうこの川よ、びちびちはねるこの水よ」と記され、半田川と人々との関わりが深かったことが分かります。

取材日は、4年生が半田川について学ぶ総合的な学習の第1時間目の授業、川についての生き物調査です。学校から歩いて5分ほどの半田川へ、4年生の児童26名が出かけました。

26名のうち6

名は半田川に行くのが初めてだそうです。半田小学校では、川に行く時は保護者の方と行くのが原則と

なっていますが、何回も行った子も、初めての子もみんな川が大好きです。

手に網を握りながら、川を覗き込む子どもたち。「あいたい」「こんないましたよ～」とあちこちで歓声があがりました。

見にいって見ると、「おたまじゃくし」「ジャコ」「ヤゴ」など様々な生き物が網の中に。30cmは優にこえる大きなナマズを見つけた時、より



川の流れに足をとられながらも、魚を探しています



なにがいるかな？



全員集合

大きな歓声があがりました。橋の上から、眺めているだけでは分からない川の中の生き物たちとふれあいました。また、川を歩いているうちに、こけてしまった子どもも。川の中でも、流れの速いところや、コケが生えていてぬるっとしているところがあり、子どもたちは、身をもって実感していました。

この日の授業は、「知る」の段階。次のステップは、「調べる」です。この生物たちの名

前や生物を調べてどういう生き物がいるかによって川的美しさを調べる水生生物調査、水質パックテスト。そして、時に自然の猛威をふるう半田川の恐ろしさ、半田川は、私たちの生活とどのように関わっているかを調べ、学習のまとめとしてふるさとの川である半田川をどのようにし

ていきたいかを考えていきます。

「自分たちの

住むふるさと半田に、このようなすばらしい川があることを知ってほしい。そして、この川を美しく守っていくために、今の自分に何ができるのか考えてほしい」と担任の高原先生。

「楽しい～」「何時間でもいたい」目をきらきらさせていた子どもたち。そんな子どもたちには、先生の思いが十分に伝わっているように感じました。今は、「楽しかった!」という思いがほとんどだと思いますが、この学習が終わる頃、子どもたちにどんな思いがうまれているか、楽しみにしています。



こんなに小さな魚がいましたよ





「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと
レポート

商売の神 恵美須様 ゆかりの地

阿波市 森 澄子さん

明治の始めには忌部氏ゆかりの善入寺島（粟島）
の前須賀に伊月の事代主神社がありました。事代主

社は延喜式内社で、
明治には郷社でした。

式内社とは平安時
代中期延喜式神名
帳（927年）に記載
されたもので、格式
高い神社でした。

事代主神は、古事
記（712年）、日本書

記（720年）に登場する神で、日
本書記では、一代、二代の天皇
の後は事代主の娘とあります。
式内社で事代主神社は、全国で
伊月と勝浦の二社だけしかあり
ませんでした。伊月の事代主神



拡大写真

社は、『安寧天皇の時代、事代主神阿波に移り』の記
録が増補古城記という書物に残っています。

勝浦の事代主神社（生夷神社）は、兵庫県の式内社
長田神社とかかわりがあり、また事代主を祖神とする
長氏一族が勝浦を開拓したとのこと。大西雅子さん
著の『阿波古社めぐり』によると、大和朝廷時代から
の古い神社である式内社率川神社（奈良県）の摂社で、
率川阿波神社の祭神は事代主神社で、光仁天皇の時
代、宝亀年中（770～780年）阿波から奈良の率川神
社に布都主神社と一緒に、鳴門の海を渡って来た神と
記録に残っているとのこと、とても、長田神社を通じて



長氏一族が広めたと思えない
のだが、善入寺島には忌部一
族が居たのだから、二神の事代
主の掛軸があるのはなにか暗
示しているとは思いませんか？

摂社:本殿の管理下にある大規模神社の呼称



源流域からの便り

第 3 便

このコーナーでは、吉野川源流域に住む方々に暮らしや四季のうつろいを、綴っていただきます。

吉野川の上流域にある大豊町に移住してきたのは、8年前。ゴムボートで激流を漕ぎ下る「ラフティング」ガイドを目指したのがきっかけで、大阪からこの地にやってきました。

初めて下る吉野川はすさまじいほどのパワーを持ち、人間の力ではどうにもできない自然の驚異を感じた。が、自然をとて身近に感じられたのもこの時だった。このすばらしいアウトドアフィールドに住みたいと強く思い、古民家を借りての田舎暮らしが始まったのである。



石鎚山を源に全長194kmの吉野川、上流域は比較的ゆるやかでのんびりカヌーに丁度いい、中流域はラフティングで激流下り、下流域に行けば広大な大河と変化するこの川の魅力にはまった。数年経って、この町には学校の統合により使われなくなった校舎がたくさんあることを耳にし

た。そういえばここに来た最初の頃、川下りの最中に見かけた、とんがり帽子の教会の様な建物はどうなっているのだろうと、ふと行ってみると、今にも子供の笑い声が聞こえそうなの、とても懐かしい感じの木造校舎がたたずんでいた。地元の人に聞くと、現在は休校中の元小学校だとか。これは何かに利用出来ないかと、思いついたのが「廃校の宿」である。

発案から開業まで2年程かかり、地元大豊町の皆さんと交流を重ねつつ、手探りで始めた宿も今年3年目を迎える。おいしい空気、満天の星空と心地よい虫の音、涼しい夜風に吹かれて誰もが童心に返れる、そんな宿を目指しつつ、この吉野川と自然の恩恵を受けながら、いつまでも大切に守っていきたいと思う。



野田 由美子さん

大豊町在住。

吉野川を見下ろす高台で川遊びや様々な体験ができる廃校の宿を営む。

ふる-ぶ 3姉妹の Information

報告

角ノ瀬排水機場の「見学会およびポンプ試運転」が行われました。

平成20年7月12日(土)

角ノ瀬排水機場(徳島市国府町東黒田角ノ瀬地先)

徳島河川国道事務所では、平成16年台風23号により発生した飯尾川流域の浸水被害(床上浸水341戸、床下浸水964戸)を受け、内水被害を軽減するために、平成18年度より「飯尾川床上浸水対策特別緊急事業」として、角ノ瀬排水機場の新設工事を進めてきました。このたび、四国最大級の排水能力(毎秒20トン)を持つポンプ施設工事が終わり、仮稼働ができる状況になりました。

7月12日に開催された角ノ瀬排水機場の「見学会及びポンプ試運転」には、地域住民や関係者など約80人が参加しました。ポンプ室内や管理棟内の操作室を見学した後、ポンプの試運転が行われ、参加者も熱心に質問をし、見入っていました。今後、操作制御盤の調整、場内整備(舗装、フェンス)工事を行い、今年度中に完成の予定です。



ポンプの試運転



ポンプ棟内。騒音についても配慮され、ポンプを運転しても敷地境界では51dbしか発生しない(普通の会話で60dbといわれている)



ポンプ室内。毎秒排出できる20トンの水は、ドラム缶100本分に相当する



管理棟では、IT技術を駆使したポンプの運転操作システムについて説明が行われた

河川環境保全のため、地域の方々と協力した取り組みを行っています

コアジサシが来た！ デコイ日記

吉野川にコアジサシを呼び戻そうと「吉野川フィールド講座」において、コアジサシのデコイ（模型）を地域住民の方々の協力を得て製作し、河原に設置しました。そのデコイ設置におけるコアジサシの観察報告です。

- 3月30日(日) ◆デコイ製作。
- 4月13日(日) ◆デコイを河原に設置。
- 5月1日(木) ◆コアジサシの飛来情報あり。(河川環境保全モニターである日本野鳥の会 三宅先生より)
- 5月9日(金) ◆18羽の飛来を確認。
- 5月14日(水) ◆19～22羽の飛来を確認。エサを採る行動(水面ヘダイブ)も確認。
- 5月16日(金) ◆2羽で並んで飛んでいる様子やデコイ設置付近に降り立つ様子を確認。
- 5月23日(金) ◆4羽の飛来を確認。デコイ設置付近を旋回したり水際に降り立つ様子も確認。
- 5月23日(金) ◆デコイ設置付近に8羽ほど降り立つ様子を確認。
- 6月3日(火) ◆9羽の飛来を確認。マウンティング(交尾)的な行動をするペアがいた。
- 6月3日(火) ◆エサを採りメスにエサを運ぶ様子を確認。
- 6月3日(火) ◆デコイ設置付近に2羽、水際に2羽着陸していた。巣を作ろうか決めかねている個体もいた。
- 6月11日(水) ◆三宅先生より、「6月8日に観察にいくと、コアジサシが営巣し、卵を抱いているところが確認できた。しかし、11日には、同じ位置でコアジサシは確認出来なかった」との連絡あり。
- 6月13日(金) ◆5羽の飛来を確認。エサを採る行動(水面ヘダイブ)を確認。
- 6月17日(火) ◆10羽ほどの飛来を確認。エサを採る行動も確認。
- 6月27日(金) ◆2羽の飛来を確認。着陸行動・エサを採る行動ともに見られず。
- 7月11日(金) ◆3羽の飛来を確認。



- 4月から行った20回の観察で14回コアジサシの飛来を確認しましたが、6月下旬からは2～3羽しか確認できませんでした。
- 河川環境保全モニターの三宅先生からコアジサシが卵を抱いている姿を確認したとの報告をいただき、過去3回の取り組みにおいて初めて抱卵が確認されました。
- デコイの製作・設置にご参加していただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



*詳しくは徳島河川国道事務所のホームページの「デコイ日記」をご覧ください。

URL: <http://www.toku-mlit.go.jp/koajisashi/koajisashi.html>

昨年に引き続き
募集します。

「吉野川野鳥観察モニター会員募集」

吉野川の野鳥情報を
教えてください！

河川環境(鳥類)に関する情報の充実
を図るため、地域の方々と連携して野
鳥情報収集を行いたいと考えています。

- ◆**応募資格:**野鳥情報を定期的に提供していただける方(経験不問)
- ◆**応募期間:**平成20年10月31日(金)
- ◆**問合せ先:**国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川環境課
TEL 088-654-9176 E-Mail: tokusa64@skr.mlit.go.jp

野鳥観察モニター会員とは？

吉野川の野鳥に関する情報を提供していただ
ける方で、徳島河川国道事務所において会員
登録をさせていただく個人又は団体です。

対象となる場所

- 吉野川本川(吉野川河口～池田ダム)
- 旧吉野川(河口～第十樋門)
- 今切川(河口～三ツ合橋)

情報提供の内容・頻度

- 吉野川・旧吉野川・今切川で見られる野鳥の種類・
個体数・確認場所等
- 平成21年3月末までの期間で月1回程度(随時受付)



*詳しくは徳島河川国道事務所のホームページを参照してください。

URL: <http://www.toku-mlit.go.jp/river/shiraberu/yacho/index.htm>

よりよい吉野川づくり 吉野川河川整備計画については <http://www.yoshinoriver.info>

ふる～ぶ編集後記

昼間小学校の子どもたちの笑顔、そして、8月2日、3日に
吉野川フェスティバルで開催したストーンアートと、河原の
石教室で出会った方たちの笑顔。今年の夏もまた多くの
皆さんの笑顔と出会って元気いっぱい編集部。しかし、吉野川
フェスティバルは暑かった(か)

昼間小学校で開催した吉野川はともだち。子どもたちの
笑顔が輝いていました。私よりも子どもたちの方が、竹と
んぼを作るのが上手でした。(や)



お手玉プレゼント

ふる～ぶめいとリーダー 上田佳穂さんからいただいたお手玉を抽選で1名
様にプレゼントします。(2個)ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電
話番号、誌面の感想もお書きのうえ応募ください。締切は9月30日(火)です。
それぞれ模様が違う手作りですので、発送の際には、写真とお手玉の模様が異なる
場合もあります。

プレゼント応募先 〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部「お手玉」プレゼント係



ふる～ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読ください。